

第6期奥多摩町長期総合計画基本構想（案）に対するパブリックコメントの実施結果

◎募集期間 令和6年10月18日（金）から令和6年10月31日（木）まで

◎提出意見 3件（住民3件）

No.	区分	意見内容（原文）	回答
1	住民 （氷川地区）	パブリックコメントを提出するにあたり、長期総合計画策定におけるパブリックコメントの位置付けを確認します。『情報発信No.2』『2. 6期長計の策定に向けた動き』の1～5のプロセスには、2024年3月に募集したパブリックコメントをどのように参考にしたのかについての言及が全くありませんでした。公開されたパブリックコメントを拝読しましたが、住民や関係人口から、当事者目線の非常に示唆に富む多くの意見が寄せられていました。しかし、それらの貴重な意見がどのように反映されたのか今回の基本構想案からは読み取れませんでした。パブリックコメントを募集するのであれば、まずパブリックコメントの位置付けを明確にいただきたいと思います。 以上を踏まえた上で、「基本構想（案）」を中心に、意見を述べたいと思います。 1) パブリックコメントの扱い 2024年3月に募集したパブリックコメント、および、今回のパブリックコメントで集まった意見を「基本計画」策定の際に、検討の対象に加えていただきたいと思います。 2) 3つのコンセプト 「第2期 奥多摩町 まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、第6期長計の対象期間である2035年の奥多摩町の人口推計を2,634人、将来人口目標値を3,095人とし、推計値より461人上積み目標設定をしています。全国的に人口減少が進み、労働人口が減っていくなか、他地域よりも人口を増やすというのは容易なことではありません。現在の4,500人強の人口から、確実に人口は減り、尚且つ高齢化率は上がることが人口推計により明確に示されています。今回、策定された基本構想案の3つのコンセプトのうち「活性化」「持続化」で挙げられた計画案を見ると、「充実、推進、促進」のような言葉が並び、減り続ける人口に対応しうるものなのか、現在より少ない限られたリソースで実現することが可能なのか疑問に思う点がありました。ワークショップで出された意見だけでなく、今後の人口減を見据え、推計値に基づいた現実的な計画をしていただきたいと思います。 3) ii. 私たちが大事にする姿勢（p.4） 1～5まで「大切にします」という表現が使われていますが、どういう状態が「大切にする／されている」のか、計画案を見た時に納得できるように検討してほしいです。以下、特に検討していただきたい点について意見を述べます。 2. 「わたし」＝「一人ひとり」を大切にします これまで、外国籍住民に対する施策が何もなかったことを考えると、「国籍」という言葉が基本構想に入ったことは高く評価します。労働人口の減少に伴い、今後、外国籍住民が増えていくことが予測されますが、「基本計画（案）p.5～」を見ると、外国籍住民に対する施策がほとんど確認できませんでした。外国籍住民が、一住民として「大切にする／される」とはということなのか具体的に検討していただきたいと思います。 3. 「くらしやすさ」を大切にします 3のキーワードとして、「福祉サービスの継続と充実」が挙げられていますが、「継続と充実」のためには、多くの人材を必要とします。全国的に福祉・介護人材が不足していますが、「くらしやすさ」を支えるための人材をどのように確保するのも同時に検討することが必要ではないかと思います。現在、すでに多くの外国人介護人材が町内で働いていますが、そのような住民に對する「くらしやすさ」も検討していただきたいと思います。 5. 「挑戦」と「学び」を大切にします 「学び」がキーワードに挙げられていますが、「生涯学習」「歴史と文化」が中心となっており、将来を担う子どもたちへの「教育」の視点が読み取れませんでした。子どもたちは、誰も予測できない変化の激しい社会を生き抜いていかなければなりません。未来へつなげるための「挑戦」の機会を子どもたちを中心に考えて欲しいと願います。	⇒ 本計画は、3月のパブリックコメントでのご意見も含め皆さんからのご意見を基に、計画をつくり上げてきました。 ご意見を含めて策定しているものと考えています。 策定にあたっては、それらのプロセスがわかるよう記載していきます。 ⇒ 意見を基に策定していますが、想定される人口減少や高齢化への対応も含めて検討してきたと考えています。 「効率化」では、特に人口減少や高齢化への対応を想定し、様々なことを見直していく必要があることなどを記載しています。 ⇒ 「一人ひとり」とすることで、外国籍の方だけにフォーカスすることなく、平等にすべての人が含まれる表現としています。 同様に、一人ひとりの「くらしやすさ」を想定することで外国籍の方も含まれていると理解しており、具体の事業を検討する際に、取り残さず対応していくを考えます。 教育は「学び」の中に入れており、子どもだけでなく、一人ひとりが挑戦できるまちでありたいと考えております。
2	住民 （氷川地区）	<対象資料の範囲> 対象資料のPDFでは、基本構想と基本計画が合わせて記載されていますが、今回のパブリックコメントの範囲は基本構想が掲載されている4ページのみで、少々混乱しました。対象範囲が分かりづらいため、パブリックコメントの意見募集範囲だけのPDFにいただけると、より分かりやすくなるのではないのでしょうか。 <文章の不一致> 構成（1ページ）と基本構想（案）（4ページ）を見比べると、基本構想（4ページ）にコンセプトが書かれていません。 また、目次（2ページ）と比較した際に、「3-3 未来を作る3つのコンセプト」、「3-4 施策体系」が見当たりません。 基本計画（案）（5ページ）には冒頭からコンセプトが書かれていますが、不一致を解消するためには、基本構想（4ページ）にもコンセプトを掲載することを提案いたします。 <3.くらしやすさを大切にします> 不便なところではなく、田舎暮らしの良さに注目しようという意図は理解できますが、やや消極的な印象を受けます。高齢化と人口減少を考慮すると、行政や交通サービスなどの質の低下が懸念され、何もしないと「くらしやすさ」が損なわれる可能性があります。コンパクトシティ化や僻地での行政のDX化、無人店などの積極的な施策が求められるため、もう少し積極性を感じられる表現が望ましいのではないのでしょうか。 <5.「挑戦」と「学び」を大切にします> 生涯学習としての「学び」と、起業などの「挑戦」は別の要素のように思われますが、現状の文言からは二つが合わさっている印象を受けます。具体的な施策がそれぞれ異なると考えられるため、もう少し分離した表現のほうが適切かと思われます。 <構想に込めた思い> 「暮らしやすい町になることで、つながりが生まれ、挑戦できる土壌になる」という一連の関連付けと、続く「わたし」を主語にした表現の構成意図が理解しづらいです。もう少し詳しい説明があると助かります。	⇒ 計画をまとめていくにあたり、コンセプトも記載予定です。 ⇒ 目次案をもとに、文章をさらに追加していく予定です。 ⇒ ご意見のとおり、「くらしやすさ」を損なわないためには、様々な取り組みが必要と考えています。取り組みを検討する際に、大切なことは「くらしやすさ」であると考えため、この記載にしています。具体の事業を検討する際に、ご意見を踏まえ事業を進めていきます。 ⇒ 生涯学習や起業にとどまらず、様々な学びと挑戦を含めてこの表現としています。 ⇒ 主役が、住民のみなさん一人ひとりであることを含め、想いとして記載しています。自分事として捉えやすいよう、「わたし」という主語にしています。

3	住民 (氷川地区)	◎7～8ページ「教育環境の維持」と「だれもが学び続ける町づくり」について 移住を考えるファミリー世帯の関心は教育です。奥多摩は保育園から中学まで素晴らしい取り組みが多いにもかかわらず、それが十分に発信されていないので、アピール度に欠ける気がします。とくに、中学校のイメージは、町内の小学生ファミリーにも、充分によさが伝わっていないと思います。 私が素晴らしいと思ったことのひとつが、地域と連携したクラブ活動、吹奏楽部です。コンサートは素晴らしかったですし、異世代との交流による学びは大きいと思います。また、発表という目標を共に目指せることは生活のマナーを防ぎ、地域の大人にとっても魅力のある活動になります。今後は合唱や演劇、ワンダーフォーゲルなどもぜひ、地域クラブ活動にしていいただければ、非常に幅のある、充実した活動になっていくと思います。 また、今の教育は成績よりも「生きる力」を付けることに重きが置かれていますので、ぜひ、ルールの見直しをお願いしたいです。生徒たち、子どもたちを管理するのではなく考える力を付け、意見を伝えることができるように、そしてSOSを出しやすい関係性を作れるようにしていくべきだと思います。例えば、制服を撤廃してはどうでしょうか。「華美にしない」「おしゃれは学業の邪魔」などという考えはすでに古く、TPOを考えた身なりや個性を考えることを習慣化できると思います。また、制服がないことは外部への大きなアピールポイントになると思います。 また、中学校や小学校の空き教室を使って生涯学習的な取り組みはいかがでしょうか。学校はだれにでも親しみのある場所ですし、やり直しの勉強はとてうれしいものです。いま、文化会館でやっている英会話や、福祉会館でやっている手話も、学校の教室でやったり、「夜間中学」的な外国人、高齢者に向けた授業もおこなうと、子どもたちにとっては地域の大人が、大人にとっては学校が、さらに親しみやすいところになると思います。 習い事への通いが難しい中、今年のプール教室はまさにありがたいものでした。私は少しお金をとった方がいいと思いました。そのほうが受けるほうも責任をもって通いますし、継続につながると思います。古里小プールの活用のためにも、1回ワンコイン(500円)、またはひと夏通して5000円は、高くないと思います。親たちがいろいろなことの無料に慣れすぎているのも問題だと思います。 ◎9ページ「犯罪から守れるまちづくり」について 山道でのトラブルが心配です。小学校高学年になると、さすがに親の送り迎えばかりではなく、自分で山を下りて行動することも増えていきます。しかし、万が一、山の中に連れ込まれたり、空き家に誰かが潜んでいるという可能性もないとは言えません。犯罪対策として、山道に地域の人の気配があるようにすることを提案します。木々に鳥の巣箱をかけたり、おくてんで展示されていたようなアート作品を飾ったりすることで、山道は雰囲気ガラッと変わります。神奈川県藤野の町に行くと、町のいたるところにオブジェがたっています。そうすると、これを鑑賞する人の気配を感じますし、車に乗っている人もいろいろなところに目を届けるようになります。(団地で空き巣が入らないように下段を作るのと同じ方法です)。 ◎9ページ「安心して暮らせるまちづくり」の障害者のことについて 障害者、障害児が安心して暮らせるように、まずは相談窓口を機能させていただきたいです。この世から障害者、障害児がいなくなることはありません。たとえ出生前診断で産むことをあきらめる風潮がひろがったとしても、脳性麻痺などは出産時の事故による障害ですし、私たちの誰もが、明日車いす生活になる可能性をもっています。障害児が生まれたことで、あるいは障害者になったことで、引っ越しを余儀なくされるようなことがないよう、まずは相談できる窓口と、連携をとれる民間事業との連携を強化していいただければと思います。 ◎10ページ「業務負担の軽減と円滑な業務運営」について マニュアル化という部分が気になりました。奥多摩だけのことでなく、全国的に人手不足を解消するために、業務のマニュアル化が進んでいます。そのため、さまざまな問い合わせに対して柔軟な対応が取れなくなっていると感じています。これから身につけるべきは、マニュアル通りに動く人間ではなく、対話力、対応力のある人材です。奥多摩ではないですが、私が実際に公的機関の窓口で相談にいき、「わからないので上のものに聞いてきます」の連発や、「あなたに当てはまる制度はありません」というAIのような返答に戸惑うことがあります。人口が少なくなるほどに、多様性は増します。これからはマニュアル化をせず、対話する姿勢を持つ人を育てていきませんか。 ◎10ページ「情報発信の改革」と11ページ「住民の意見のシェア」について 町のこと、特に問題ごとに、きちんと町民の関心が向き、力を合わせられるように、これまでの町内放送(防災放送)と合わせてオンラインでの情報発信をお願いしたいです。とくに、議会のオンライン傍聴は、早急に進めていただきたいですし、他市区町村ではほとんどが取り組んでいますので、それほど大変なことではないと思います。平日昼間に開催される議会に、働き盛りの世代や、学業真っ盛りの若者が関心を持ちにくい状況の改善になると思います。また、そのように関心を持つことで、住民からの意見も出しやすくなりますし、子育て支援などの恩恵も実感できるようにになると思います。いまのままで、無関心層が増えてしまい、結果的に数々のありがたい支援と、住民の思いにズレが生じることになると思います。 町のお仕事は大変だと思います。本当に役場の皆さまには感謝にたえません。協力できることがありましたら、いつでもお声がけくださいませ。今後ともよろしくお願いいたします。	⇒各事業への具体のアイディア等含めご意見をいただいたものと考えます。本計画に記載している事業は案であり、個別計画等、具体の事業を検討する際に、ご意見を踏まえ検討させていただきます。
---	--------------	---	---